

梅南中 研究授業だより

平成27年度第2号

校内研修担当

平成27年11月2日(月)

10月27日(火) 技術科新任教員研修会を行いました

梅南中学校における校内研修は、学力向上を目指す授業研究、指導方針について全教職員の共通理解を深める生活指導研修、子どもたちの生活背景、地域理解、外国人教育などの人権研修と幅広い内容で定期的に実践しています。また、近隣他校や地域で行われる公開研修会も見識を広めるよい機会となっています。すべては子どもたちのために、授業で学力向上を、生活指導でマナーと規範意識の向上を、人権教育でいろいろな人の多様な課題を理解できる意識の向上をするよう、教職員の責務を果たしていかなければなりません。

今年度2回目の研究協議を伴う校内研究授業は、大阪市技術科新任教員研修会として他校の技術科新任教員6名をお招きし10月27日(火)6限に塙本先生(2-1)が授業者として行いました。課題解決に向けて意見交流を多く取り入れたグループ学習を中心に授業展開されました。(内容はエネルギー分野の導入で興味関心を持たせるには大変な部分だったと思います。理科でも全く同じ内容がありますが、いつもかんたんに済ませてしまっています。反省です…。) 平成33(2021)年度から実施の中学校次期学習指導要領には「アクティブ・ラーニング(AL)」について明記されます。急に授業スタイルを変えるのは困難でも、徐々に新しい手法を取り入れていくことで精錬を重ね、来るべき時期に備えることも必要です。そのヒントが今回の研究授業にあったのではないかと思います。

研究授業には教育センターから山口博功技術担当指導主事(前任教頭)をお招きして、指導助言、ならびに茨城県古河市立小学校におけるICT教育の視察報告、ALについての詳しい解説をしていただきました。次期学習指導要領は「英語教育」、「AL」、「ICT」、「いじめ」が大きな柱となるそうです。

また、研究協議はいつもと手法を変え、ワールドカフェを用いて、「学力向上をめざす授業について大切にしたいことって何?」をテーマにグループ協議を行いました。新鮮味もあり開始すると会話が止まらないグループも出て、充実したものとなりました。まさにこのグループディスカッションが、多くの教科で子どもたちが取組むべきスタイルなのかな、将来のスタンダードになるのかなと感じました。研究協議での意見をまとめておきます。いろいろな考え方を役立てていただいて今後の授業力向上につなげてください。

【研究協議での意見】

- 各班異なる質問を班員みんなで相談しながら答えを探り出せるように工夫されているところが良い。PowerPointを使っての解説もわかりやすい。
- エネルギー分野の興味関心を引き出すことができている。最初のスマートフォンの具体例を出すところから子どもたちを引きつけることができている。
- 子どもたちがせっかくグループ学習をしているのだから、先生はもう少し机間巡視して各班でどんなことを考えているかを聞く、あるいはヒントを出すようにすれば良いかも。

- 黒板に貼る紙（カード）や表示する文字の大きさが小さいと感じた。（新任研の先生たちはWくんのようす気づき、このような発言があったものと思います。）
- 熱変換のところでは、子どもたちの発想をうまくひろってあげることができている。期待した答え以上が出た時も、うまく返答できている。
- 電球では、熱が発生（電気E→熱Eに変換）することはよくわかった。電球の明るさを調節できるようにして見せられたら、なお良いのでは。（その工夫が意外と大変かも）
- 時間の都合もあったが、ワークシートの活用方法を再考してはどうか。答えを出してしまうのではなく、子どもたちの意見から引き出せるようにすれば良いのでは。
- 発表から、学習評価をつけていく作業が授業中でも必要ではないか。（私見です）

【ワールドカフェ】

Juanita Brown（アニータ・ブラウン）氏と David Isaacs（ディビッド・アイザックス）氏によって、1995年にアメリカで生まれたおしゃべり手法です。「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々がオープンに会話をを行い、自由にネットワークを築くことのできる『カフェ』のような空間でこそ創発される。」という考えに基づいた話し合いの手法です。自分の意見を否定されず、尊重されるという安全な場で、相手の意見を聞き、つながりを意識しながら自分の意見を伝えることにより生まれる場の一体感を味えます。

「学力向上をめざす授業について大切にしたいことって何？」というテーマで、7分2ラウンドしかできなかつたので全班の意見を共有するところまではいきませんでしたが、答えはないのですべてが良い意見と尊重し、各班ともブレインストーミングしながら、教員が、子ども・保護者が、行政が努力しなければならないことといったようにいろいろな視点から学力向上につながる具体的方策を交流しました。お招きした先生からも勤務校の様子、梅南中との違いなども交えてお話できました。

【アクティブ・ラーニング（AL）】

次期学習指導要領実施に向けて学校全体で準備することは、チョーク＆トークの一斉授業、一方的に教え込むことからの脱却をはかり、互いの考え方を伝え合う、全員が話したくてたまらない授業内容へ転換することです。これから求められる指導力は、考えを聴く、思考する間を待つ、書く活動をさせる、個人の目標を持たせる、話合う活動や交流があげられます。ALはその手段の1つとして有効に活用できるものです。意見を言える人になれば自信をもつことにつながり、自己肯定感も育めるかもしれないですね。

☆ちなみに【エバンジェリスト（evangelist）】

もともとはキリスト教の「伝道者」を意味し、主にキリスト教の啓蒙活動をしている人などを指す言葉。近年、海外のIT企業において、「自社の製品やサービスについて分かりやすく説明（伝道）する人」という意味でエバンジェリストという役職が生まれ日本でも講演やセミナーでプレゼンやデモンストレーションを行う役職として存在しているそうです。